学校番号	2001

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	現代の国語	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「探求現代の国語」（桐原書店）						
副教材等	『正しく読み・解くための力をつける現代の国語』（数研出版） 『トータルサポート新国語便覧』（大修館） 『入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP２５００三訂版』（いいずな書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・様々な文章に触れることで「読解力」を向上させるとともに、批判的に読み進めていくことで「多角的なものの見方」ができるようにしたい。
・副教材等を用いて学習をサポートし、家庭学習の習慣を身に付けたい。
・グループワークやペアワークを取り入れ、他者の意見を聞くことで「深い学び」につなげたい。

２　学習の到達目標

・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	評論Ⅰ ［教材］ 言葉の力　大岡信	a：具体的なエピソードと筆者の主張との関係について理解している。 b[書]：本文の読み取りをもとに、構成や表現を工夫しながら文章にまとめることができる。 c：自分の考えをまとめる中で、自らの言語生活を見つめ直している。	定期考査 小テスト	定期考査	課題
	評論Ⅱ ［教材］ サイボーグとクローン人間　山崎正和	a：接続語の働きに注意して、比較対照されている内容を正確に理解している。 b[読]：サイボーグとクローン人間の違いについて、「製作法」「人々の反応」「人間の考え方や生き方への影響」の三点から的確に捉えている。 c：科学技術の発展が人の考え方に影響を及ぼした例を、自らの知見に照らしながら考えている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題
	評論Ⅱ ［教材］ 読む　外山滋比古	a：「読む」行為のさまざまな意味を辞書などで調べ、理解している。 b[話/聞]：自らの読書経験の中での「解釈の多義性」にまつわる経験を、相手に伝わるよう表現を工夫しながら話し合いができる。 c：本文を踏まえて、創造的な読みを実際に試みている。	定期考査 小テスト	定期考査	発表
	評論Ⅱ ［教材］ 〈知〉の深化　神様 川上弘美	a：慣用表現や表記の違いに込められた意図やその効果を理解している。 b[書]：外山滋比古「読む」で述べられた「解釈の多義性」を踏まえ、「神様」というタイトルを自分なりに解釈し、そのように解釈した根拠を説明することができる。 c：全文を音読して、初発の感想をまとめている。	小テスト		課題
	実社会Ⅰ ［教材］ 問いの立て方とオリジナリティ　上野千鶴子	a：「一次情報」「二次情報」の定義を理解し、自ら情報を分類できる。 b[話/聞]：自ら問いを立て、その問いについて、本文で示された条件に照らして適当なものであるか、話し合いを通じて検討することができる。 c：「一次情報」「二次情報」の具体例を実際の経験の中に求め、発表している。	定期考査 小テスト	定期考査	レポート
	実社会Ⅱ ［教材］ 実用的な文章４ 求人票を読む	a：実用的な文章を判別するうえでの4つのタイプを理解している。 b[読]：文章Ⅰ・文章Ⅱを通じて、それぞれの企業の仕事の内容や労働条件を正確に読み取っている。 c：将来自分が働くことに対する自分なりの展望を持ち、自分が選ばれるだけでなく、自分が職場を選ぶという姿勢について、考えを深めている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題 発表

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
二学期	実社会Ⅱ ［教材］ 経済の論理／環境の倫理　岩井克人	a：「倫理」「信任」など、キーワードの意味を正確に理解している。 b[読]：「倫理」を意識しながら、全体の構成を的確に把握している。 c：環境問題の原因と解決策を考えることで、教材の内容への関心を高めている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題
	実社会Ⅱ ［教材］ 遅れてきた「私」 若林幹夫	a：日本語の多様な一人称について、それぞれの使い分けを理解している。 b[読]：つながりの中で自分は社会の中に存在する、社会的な出来事であることを理解している。 c：同じ時を共有したり、時間の流れを通じたりして形成される自分と社会との関係性について理解し、考えを深めている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題
	評論Ⅳ ［教材］ わかろうとする姿勢 鷲田清一	a：「全人的理解」「〈主体―客体〉の関係」「この非対称」など、注意を要する表現を理解している。 b[書]：「他者の理解」において大切なことは何かを的確に読み取り、まとめている。 c：本文中の具体例を通して、「わかろうとする姿勢」とは何かを考えている。	定期考査 小テスト	定期考査	レポート
	評論Ⅴ ［教材］ 言葉を学ぶとは― 「言語ゲーム」の概念 高田明典	a：本文中の比喩表現が指すものを理解している。 b[話/聞]：筆者の主張を踏まえたうえで、「言語の専制」から抜け出し「言葉の世界の主人」となるために大切なことを考え、話し合うことができる c：言葉を用いる主体としてのあるべき姿勢について、自分なりに考えている。また、考えたことを話し合いを通じて見つめ直し、さらに深めている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題
	評論Ⅴ ［教材］ 〈知〉の深化　庭 山本文緒	a：本文の場面を時間軸に沿って分類することができる。 b[読]：「母」の生前と死後とで、「父」と「私」の関係性がどのように変化したか読み取っている。 c：全文を音読して、初発の感想をまとめている。	小テスト		レポート
	評論Ⅵ ［教材］ 歴史は「今・ここ・私」に向かってはいない 内田樹	a：フーコーの歴史観を本文の叙述に即して理解している。 b[読]：歴史に対するフーコーの根源的な問いかけに対して、筆者が考えるその答えへの糸口を的確に読み取っている。 c：歴史を学ぶ意義について考えたり、題名から受ける印象を発表するなどして、教材への関心を高めている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
三学期	評論Ⅴ ［教材］ 目の見えない人は世界をどう見ているのか 伊藤亜紗	a:本文をインタビューによる取材内容と、筆者の考察とに分類できる。 b[話/聞]: 実際に視覚障害者にとっての世界のあり方を追体験し、目が見えているときとの情報の入手のしかたの違いについて気づいたことを、相手に伝わる表現を工夫しながら話し合い、互いに確認し合うことができる。 c:実社会における視覚障害者への配慮の例や問題点を調べるなどして、教材の内容への関心を高めている。	定期考査 小テスト	定期考査	発表
	実社会Ⅲ ［教材］ 実用的な文章７　新聞記事からバリアフリーを考える	a: 実用的な文章を読み解く際、タイプに応じた手順を踏むことができる。 b[書]:資料をもとにバリアフリーとユニバーサルデザインの違いを整理し、まとめることができる。 c:バリアフリーをめぐる社会情勢や市民の意識の変容を調べるなどして、教材の内容への関心を高めている。	定期考査 小テスト	定期考査	レポート 発表
	評論Ⅵ ［教材］ 思想の出自 井崎正敏	a: 近代西欧における政治的な対立について、その構造や背景を本文の記述に即して理解している。 b[読]:論理の展開を正確につかみ、自分とは異なるものの理解を求める糸口として、思想の出自に着目している。 c:思想がどのようにして誕生するのか、自分自身の思考の過程をたどりながら考察している。	定期考査 小テスト	定期考査	課題
	実社会Ⅲ ［教材］ 納税は義務か 大竹文雄	a: 推論の主な類型「演繹的な推論」「帰納的な推論」について、それぞれの定義を理解している。 b[話/聞]: 本文で示された「公共財」「所得再分配」などの観点を踏まえて、今後の日本社会をよりよくするために必要な施策を話し合うことができる。 c:本文に関連する日本国憲法の条項や外国の憲法の訳文を読むなどして、教材の内容への関心を高めている	定期考査 小テスト	定期考査	レポート

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　２０　）時間　・書くこと　…　（　３０　）時間

・読むこと　…　（　２０　）時間